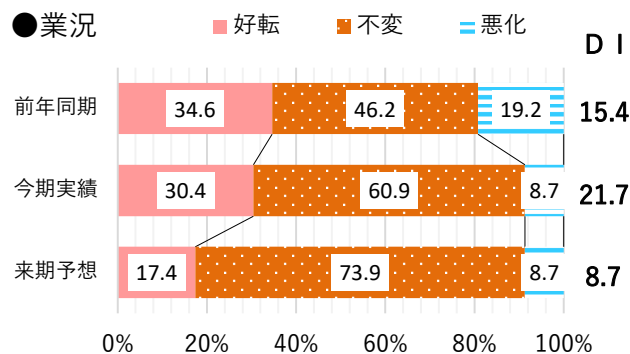


# サービス業

## 業況、売上、採算

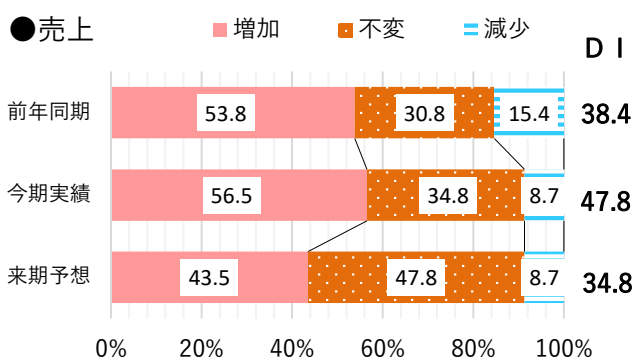
今期（2023.7～9）の業況判断DIは21.7で、前年同期（2022.7～9）と比べ6.3ポイント上昇しました。

来期（2023.10～12）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



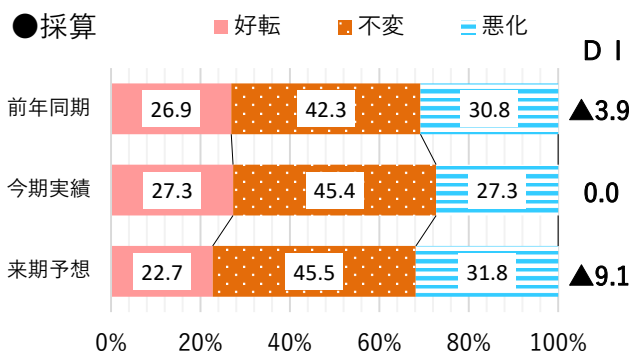
今期の売上高DIは47.8で、前年同期と比べ9.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

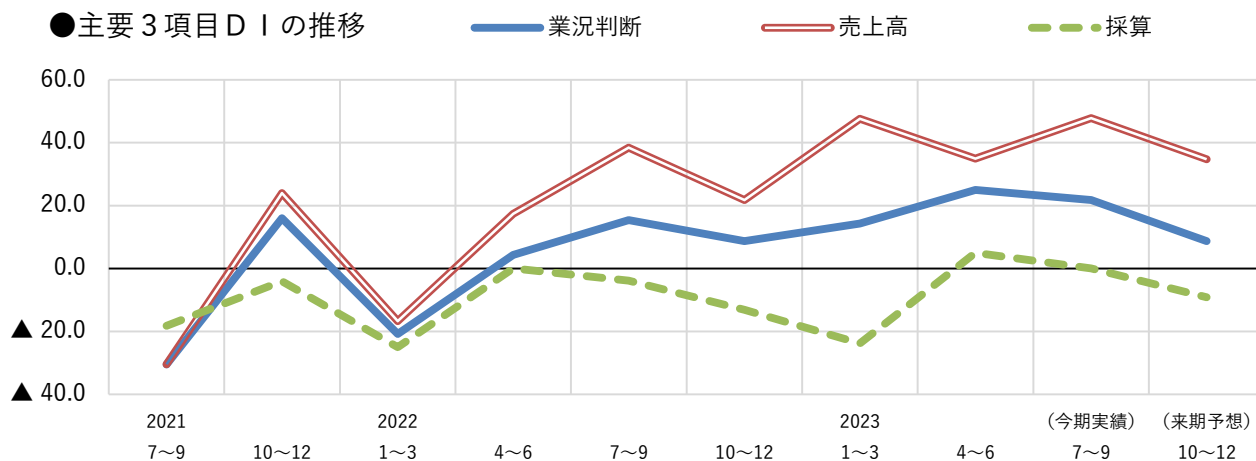


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



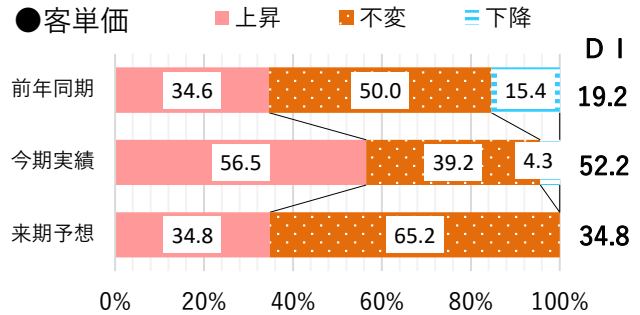
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

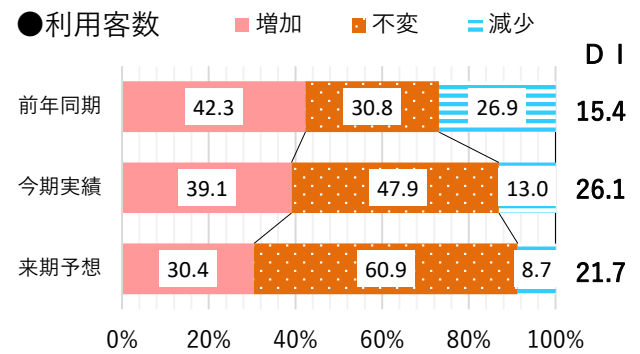
今期の客単価DIは52.2で、前年同期と比べ33.0ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



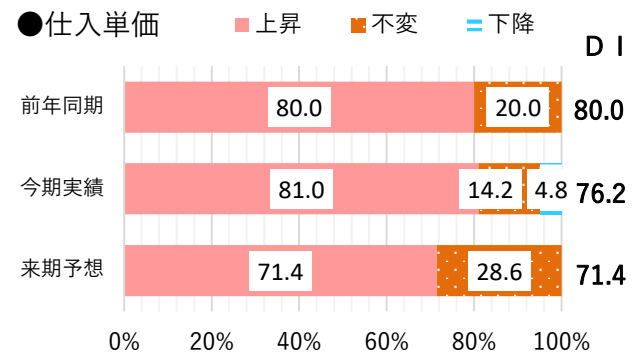
今期の利用客数DIは26.1で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは76.2で、前年同期と比べ3.8ポイント低下しました。

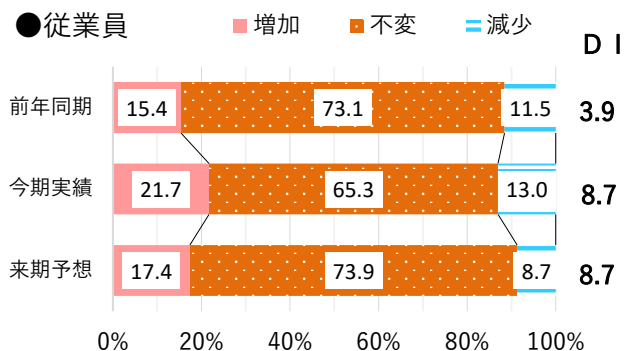
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

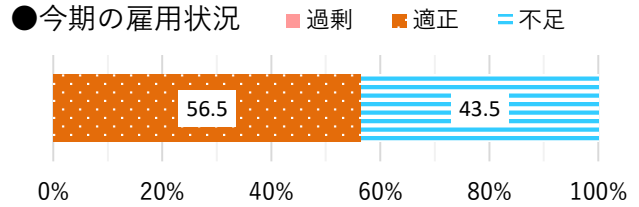
今期の従業員数DIは8.7で、前年同期と比べ4.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は56.5%、不足していると回答した企業の割合は43.5%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、39.1%を占めましたが、回答全体では43.5%の企業で従業員が不足しています。



今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

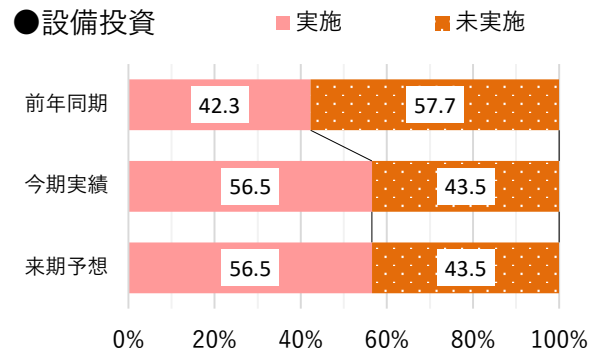
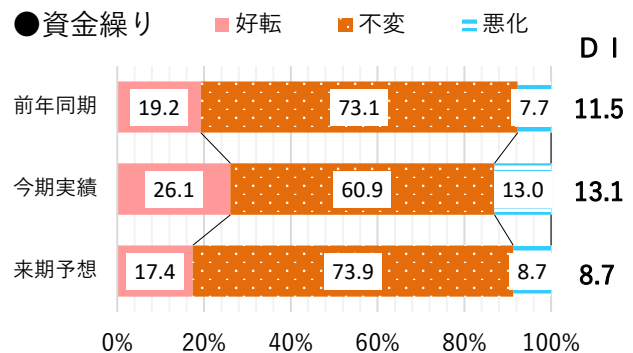
### 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは13.1で、前年同期と比べ1.6ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

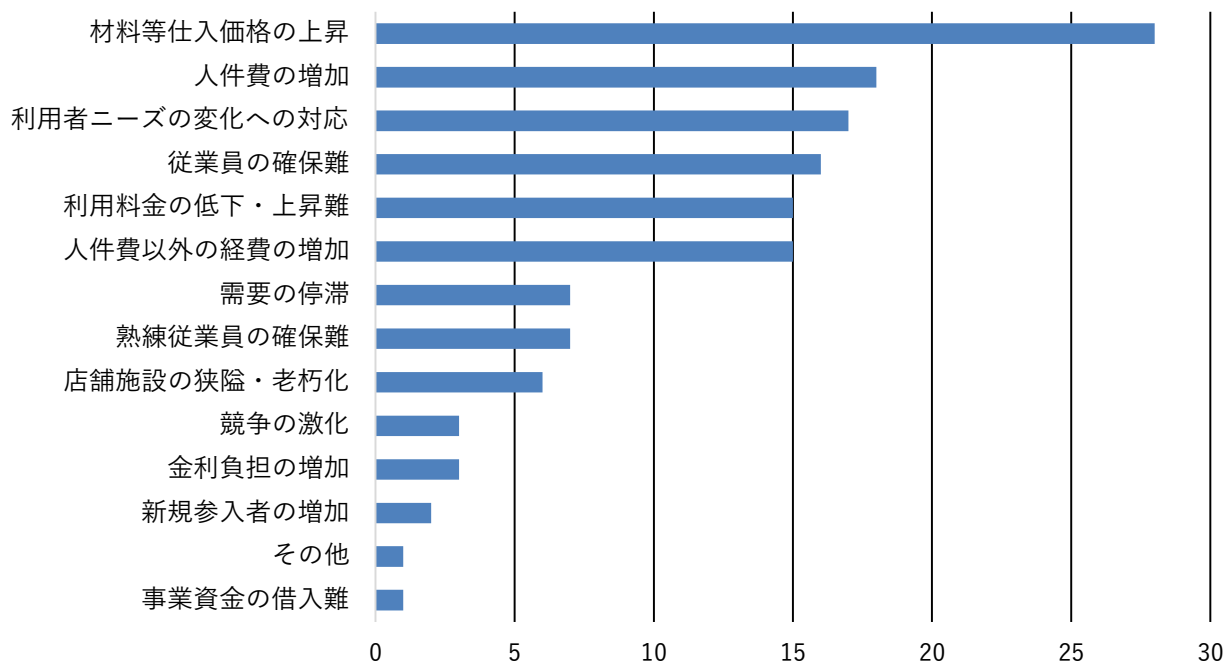
設備投資を実施した企業の割合は56.5%で、前年同期と比べ14.2%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、 「OA機器」(同位)、2位が「サービス設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は56.5%で、横ばいを予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 観光需要がある為なんとかこなしているが、年末年始の閑散期を考えると見通しは甘くない。仕入食材の高値が追い打ちをかけている。最低賃金の引き上げは良いが、扶養控除限度額を大幅に上げないと、人手不足に拍車がかかるため、大変困る。（飲食店）
- 市内イベントが開催されたことで、弁当などの注文が多かった。韓国人観光客の利用が多かった。小樽市民の客数減少や客単価の下降傾向が見られる。特に夜の客数減少が著しい。（飲食店）
- 前期と同じく仕入価格は上昇傾向にある。特に魚介類の高値が続いているが、来店客が多いので材料のロスがなく利益が出ている。（飲食店）
- 酷暑もあり、来客にムラがあったが、例年と変わらない状況だった。仕入価格は上昇が続く。（美容業）
- 売上は増加しているが、エネルギーや資材、人件費の高騰により経費も増加した。（ビルメンテナンス）
- 売上は増加したが、原材料価格の上昇に伴うもののため、利益は変わらない。（ビルメンテナンス）
- 売上が増加した。（ビルメンテナンス）
- コロナ禍を脱し、各種イベントが再開されたことで売上が増加した。（廃棄物処理業）
- 客数や売上は変わらないが、人件費や販管費が増加した。（不動産代理・仲介業）
- 新卒採用によりスタッフ不足が解消され、客数が増加した。（スポーツ施設）
- 夏季休暇中の定例的な業務や固定客からの売上は減少した。新規客からの売上は厳しかった。（写真業）
- 店舗合併による一時的な増収のため、好転とは言えない。（保険業）
- 売上は減少した。原材料とエネルギーの価格高騰により、資金繰りは厳しい。（写真業）
- 医療機関との取引が主のため、大きな変動はないが、病床の減少や閉院が目立つ。（各種物品賃貸業）
- 当初見込より取扱が伸び悩んだ。（旅行代理店）

## [来期の業況について]

- 市民の来客が少ないため、売上の維持は難しいと思われる。（飲食業）
- 最低賃金が上がり、物価上昇や光熱費の高騰もあるため、料金の引き上げを検討している。ただ値上げするのではなく、より技術や商品をアップデートし、納得いただける値上げを目指す。（美容業）
- 今期同様の状況が続くか、人材不足による業況悪化を見込む。（ビルメンテナンス）
- 今期同様客数や売上は変わらず、人件費や販管費が増加すると思われる。（不動産代理・仲介業）
- 今期に引き続きスタッフを増員する。（スポーツ施設）
- 今期以上の増収は見込めないため、不変を見込む。（保険業）
- 年賀状の受付があり、今期と比べて売上が増加すると思われる。（写真業）
- 北海道内はどのエリアも人口減少が進んでいるため、医療機関も影響を受ける。省人化の提案により、商圏を確保したい。（各種物品賃貸業）
- 旅行業の収益は仕入価格の高騰と今期旅行需要のリバウンドで減少または不変を見込むが、旅行業務外の収益でリカバリーできるため、業況は不変を見込む。（旅行代理店）
- 魚介類の高値が続くが、客数と利益の増加を見込む。（飲食店）
- 売上は増加するが、資材や人件費の高騰により経費も増加すると考えている。（ビルメンテナンス）
- 最低賃金の引き上げ、仕入価格の上昇による採算の悪化を見込む。（ビルメンテナンス）
- 秋季の定例業務と固定客からの売上を見込む。（写真業）